

通常流通用抗インフルエンザウイルス薬の供給状況について ～ インフルエンザ流行宣言以降の状況 ～

インフルエンザの流行に関する定点医療機関あたりのインフルエンザ患者報告数が、全国平均で1を上回り、インフルエンザの流行が発表されました。流行発表以降における抗インフルエンザウイルス薬の供給状況については以下のとおりとなっています。

1. 2009年9月-2010年3月の供給計画

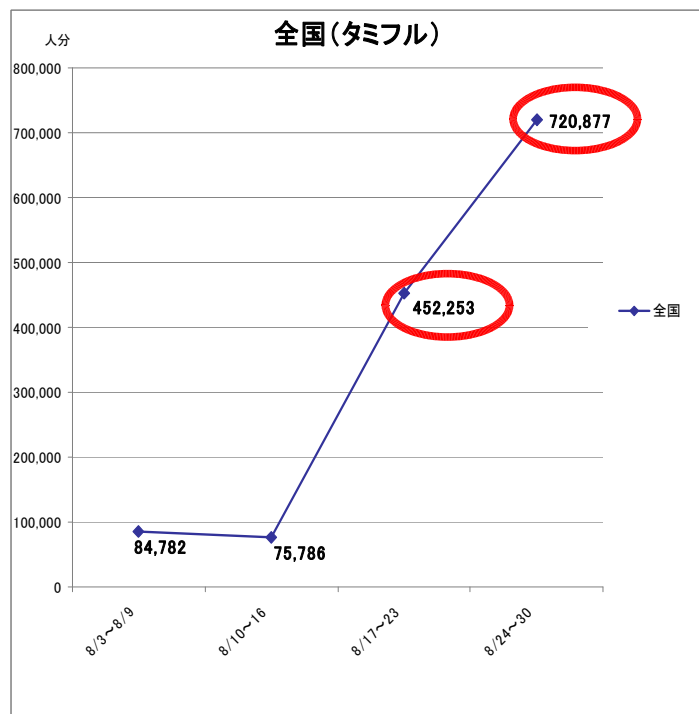
タミフル 約1,200万人分 (昨シーズン供給量の約2.8倍) (中外製薬より)
 リレンザ 約1,270万人分 (昨シーズン供給量の約6.7倍)
 (グラクソ・スミスクラインより)

- * この他にメーカー在庫及び卸在庫がある。(2.②参照)
- * 製造販売業者は、感染拡大の状況を踏まえ、追加供給の検討を進めている。

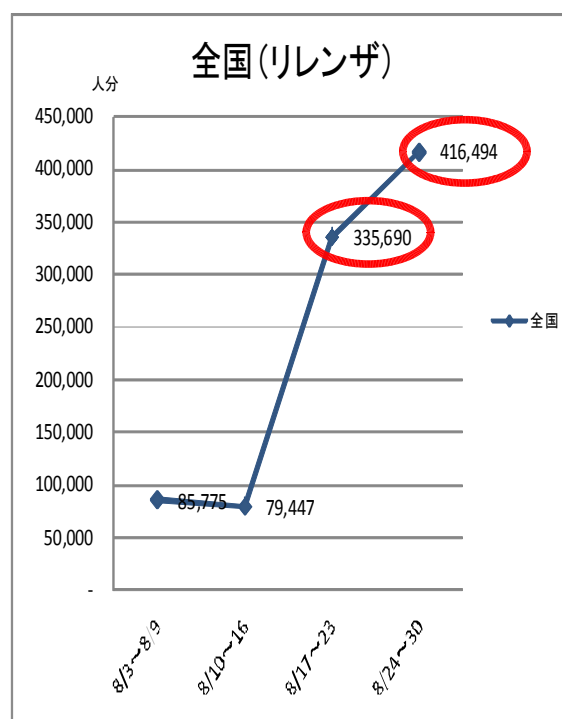
2. 供給状況 ～ 9/6集計分 ～

① 卸売業者から医療機関への供給量 (8月17日～30日分)

タミフル 約117万人分



リレンザ 約75万人分



② メーカー・卸の在庫量 (8月30日時点)

タミフル 約200万人分

リレンザ 約80万人分

(参考)

【行政備蓄用抗インフルエンザウイルス薬（タミフル・リレンザ）の備蓄量】

行政備蓄用抗インフルエンザウイルス薬（タミフル・リレンザ）については、8月末までに約4,500万人分を確保。

○ タミフル

国	備蓄	約2,680万人分
県	備蓄	約1,415万人分
	計	約4,095万人分

○ リレンザ

国	備蓄	約268万人分
県	備蓄	約224万人分
	計	約492万人分

※ 国備蓄については、8月末現在数。

※ 県備蓄については、8月末現在数。（都道府県別の内訳は別添参照）

出典：「新型インフルエンザ患者数の増加に向けた医療提供体制の確保等について」
（平成21年8月28日事務連絡）別添3-5

都道府県別の抗インフルエンザウイルス薬備蓄状況一覧 (H21.8 末時点)

No.	都道府県名	備蓄済量 (千人分)	No.	都道府県名	備蓄済量 (千人分)
1	北海道	675	25	滋賀県	194
2	青森県	177	26	京都府	308
3	岩手県	165	27	大阪府	720
4	宮城県	284	28	兵庫県	487
5	秋田県	132	29	奈良県	118
6	山形県	102	30	和歌山県	88
7	福島県	254	31	鳥取県	84
8	茨城県	357	32	島根県	99
9	栃木県	166	33	岡山県	162
10	群馬県	235	34	広島県	339
11	埼玉県	866	35	山口県	193
12	千葉県	497	36	徳島県	97
13	東京都	4,048	37	香川県	84
14	神奈川県	1,036	38	愛媛県	122
15	新潟県	283	39	高知県	66
16	富山県	129	40	福岡県	610
17	石川県	155	41	佐賀県	212
18	福井県	115	42	長崎県	226
19	山梨県	106	43	熊本県	154
20	長野県	278	44	大分県	104
21	岐阜県	254	45	宮崎県	149
22	静岡県	441	46	鹿児島県	146
23	愛知県	588	47	沖縄県	112
24	三重県	161			
				合計	約 16,380 千人分

【千人未満切捨てで計算】

注1) 各都道府県における抗インフルエンザウイルス薬の備蓄は、今後も各都道府県と製造販売業者との契約に基づき、順次計画的に納入される予定である。

注2) 上記都道府県備蓄分の不足が見込まれる場合には、都道府県からの要請に基づき、国の備蓄分を放出することとしている。

(8月31日現在)

- * 1 抗インフルエンザウイルス薬の備蓄量については、タミフル（リン酸オセルタミビル）及びリレンザ（ザナミビル）の合計である。
- * 2 抗インフルエンザウイルス薬の製造販売業者と各都道府県との契約に基づき、備蓄用として8月までに納品した抗インフルエンザウイルス薬の数量を計上している。
- * 3 県内に患者が発生した場合に備え、各都道府県が保健所等に配置換えをした抗インフルエンザウイルス薬の数量を含んでおり、数量は千人分単位で計上している。